

令和3年度 自己評価・学校関係者評価結果公表シート

学校法人 子宝幼稚園

1. 本園の教育目標

“よく遊び よく学ぶ 瞳輝く子ども”を育てる為に、子宝を愛情をもって、優しく厳しく
教え育む。教職員が、チームワークを大切にしながらも、子どもの為に切磋琢磨し、
幼児教育に自信のもてる幼稚園を目指す。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・50周年を翌年に控えて
- ・人材の確保と育成
- ・指導計画や行事の見直し
- ・教職員の連携

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
・50周年を翌年に控えて	記念誌を初めて作成する過程に於いて、創立時よりの記録や当時からお世話になった地域、理事、会長やOGの先生との交流によって、少しではあるが子宝の50年の全体像が見えた気がする。
・人材の確保と育成	少子化が、子どもはもちろん職員にも及ぶ中で、昨年に続いて、今年も半数の2名が人材会社よりの採用となった。今や企業では一般的となっている様だが、とにかく良き人材、救世主となって、本園の幼児教育推進の仲間となることを期待している。
・指導計画や行事の見直し	毎年、保育内容を見直す中で、コロナ禍2年目で、より子ども達の負担が少なく、より子どもはもちろん先生達も楽しめる保育。更には保護者の方々にもより満足感を感じて頂ける保育・行事に努めた。
・教職員の連携	全員が集まっての会議は時間的に難しい中で、的確で迅速な情報共有は、園児の教育、安全等を左右する。途中採用の先生に対して、十分な園の理念や方針が伝わらず、改めて連携の重要性を感じた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和2年度に続いてのコロナ禍の中で、マスクの着用を余儀なくされ、子ども達や先生も不自由であったと思うが、保護者の方々の協力も得て、無事に全ての行事を行う事が出来た。又、新設園や公立3年保育実施により、3歳児の入園は初めて100人を切り、2人担任から、1人担任へと補助の先生のスタイルが定着しつつある。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
50周年の感謝とこれからの幼稚園の生き残りを模索	50周年を前に3年計画での園の整備の最終章としたい。又、記念誌等、遺漏なき様に努めると共に、改めて園の歴史を遡り、感謝と共に新たな幼稚園の存在意義を模索したい。
満3歳児保育に力を入れたい	園児減少の中で、2年保育は殆どなく、3年保育も開園以来初めて100人を切る結果となった。そこで園則を変更して、満3歳児クラスを含めて6クラス150名とし、総定員を480人から465人とする事で、減少傾向に少しでも歯止めをかけたい。
家庭から集団生活へのスムーズな移行	入園前の子ども達との時間を大切に出来るだけ母子の絆を深めて欲しいと願っている幼稚園であり、その思いを理解して頂いて、入園してくる子ども達を上手に育てられていると嬉しく思っている。只、時に親が世話を焼き過ぎて、子どもが自分で何もしない。いけない事をしても注意をしない、叱らない等の家庭での教育が弱いと感じる。本園の保護者の方の杖となる支援をカウンセリングの先生と共に強化したい。
若手の育成と退職防止	家庭教育、学校教育と学ぶ中で、コロナの影響で十分な学生生活を送れなかった不幸な面が今の学生にあると思うが、子どもを教育する教師としての自覚と責任を身に付けさせたい。その為にも貴重な新任の先生を個々に合った導き方で、良き子宝の先生へと育てたい。

6. 学校関係者の評価

発表会等、人数に制限がある事は残念でしたが、昨年に続いてのコロナ禍だけに、園の方も慎重に、柔軟に子どもや保護者が楽しめる様に進めてくれ、嬉しく思っています。来年の50周年を控えて、春・夏の長期休みを利用され、園1階中央の防風シャッター、園児バスや冷暖房の入れ替え等、園内外の整備にも努力されていた。

7. 財務状況

公認会計士監査より、適正に運営されていると認められている。